

平成20年 あけましておめでとうございませう



下田市長
石井直樹

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。

さて、昨年から景気回復の兆しが見られますが、国や地方行政を取り巻く環境は依然きびしい状況が続くもの予想されます。

今後少子高齢化が進み、地域格差の拡大、地方交付税の削減など、自治体を取り巻く状況が変化する中、「行政改革」の推進に引き続き取り組んで行かなければならないと考えております。

昨年一年を振り返ってみますと、行政改革の推進に向けて、「下田市集中改革プラン」に基づき、組織、施設の統廃合等合理化を図ってまいりました



下田市議会議員
増田清

明けましておめでとうございます。輝かしい新春を皆様とともに迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

市民の皆様には、日頃から市政に対する温かいご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

私は、昨年5月11日の臨時会におきまして、議員各位のご推挙により、議長に選任され、就任以来、市政の進展と円滑なる議会運営に微力をささげまいりました。この間、市民の皆様から寄せられました温かいご指導やご厚情に対し、心より感謝申し上げますとともに、厚くお礼申し上げます。

が、昨年6月に成立した「地方財政健全化法」において実質公債費比率が健全化判断比率の一つとなり、当市においては、基準値18%を超える20・5%となったことにより、地方債の借入れに国の許可が義務付けられ、新たに「公債負担適正化計画」を策定し行政運営に取り組んで行くこととなりました。

このような状況下においては、実質公債費比率の改善が急務であり、数値を引き上げる要因の一つである下水道事業の経営改善のため、料金改定をさせていただくこととなりました。

経営改善を実施することで公的資金の高利地方債の借換えが許可され、年間5千万円以上の償還金利子の軽減が可能となる見込みであり、新たな起債を抑制することなど併せて平成24年度には単年度実質公債費比率が基準値18%を下回る計画となっております。

更に厳しい内部努力を進めていくことは当然であります。市民の皆様におかれましては、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

賀茂地区合併構想につきましては、昨年の首長会議において、東伊豆町及び西伊豆町が離脱し、この枠組みでの合併は不可能となりましたが、当地域の効率的な行政運営及び将来の賀茂地区の一体化を考慮し、新たな1市3町の枠組みで合併協議を推進してまいりたいと考えております。

さて、本市では海や温泉などの自然資源を有効に活用し、観光産業の活性化を図るため、執行委員長としてその代理を務めましたが、改めて地方都市として単独で行われておりますこの祭りの重要性について認識いたしました。

議会においては、昨年4月の市議会議員選挙から議員定数を14名とし、常任委員会も3委員会から2委員会といたしました。また9月定例会では、議長、監査委員を除いた議員12名で平成18年度決算審査特別委員会を設置し、議会の果たすべき責務に積極的に取り組みました。

下田市の経済は、近隣の町とともに長く低迷を続けており、個人所得額も県平均を下回っております。観光産業の活性化による景気の回復が強く望まれている中、昨年6月には、静岡県東京事務所に赴き、観光客の誘致と自然環境に配慮した情報処理関連産業等の誘致について、協力要請をしてまいりました。若い方々を含めた雇用の場の確保が叫ばれているこのような状況を踏まえ、今後も最重要課題として取り組んでまいります。

また、下田市は交通のアクセスが悪くその整備が望まれております。伊豆縦貫自動車道は東名高速道路の沼津インターより三島市の国道1号線と接続する塚原インターまでの東駿河湾自動

環境資源と健康や癒しを結び付ける「海洋浴の郷づくり事業」を推進しておりますが、昨年12月には本事業の一環として、「海洋浴」を活用した、温泉療法やノルディックウォーキング等の健康プログラムの体験ができる滞在型プログラム「健康づくり大学下田キャンパス」が開催されました。

今後も「海洋浴の郷・下田」を定着させ、全国に情報を発信するよう取り組んでまいります。

また、下田市は、昨年4月に「景観行政団体」に名乗りをあげ、景観計画の策定に取り組んでおります。

昨年の7月には、「旧南豆製水所」が国の登録有形文化財として登録されたことも背景に、これらの歴史的な景観や豊かな自然景観を活かし、市民の皆様と連携し、「歩いて楽しめるまちなみ風景づくり」を推進してまいりたいと思います。

本年はアメリカ合衆国ニューヨーク市と姉妹都市提携を締結して以来50年の節目の年に当たります。

これまで積み重ねてきた国際交流を一層推進し、市民の交流と相互理解を更に深めて行きたいと考えております。今年も財政健全化に努め、市民の皆様と元氣なまちづくりのために全力を挙げてまいりますので、一層のご支援、ご協力をお願いいたしますとともに皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

車道路が平成20年度開通となります。伊豆市修善寺では今年度中に一部開通となり、下田・河津間も事業着工が早期に始まること切望されており、今後も早期開通に努力してまいりたいと考えております。

市町合併については、1市5町との協議が破綻し、河津町、南伊豆町、松崎町との1市3町による合併を果たすべく力を注ぐとともに、市民の皆様のため、議会といたしまして大きな改革へ向け、責務を果たしてまいりたいと考えております。

以上のような現況を踏まえ、私ども議員も市民の代表としての責務と役割の重大さを深く自覚し、今、何が必要であるかを的確に判断しながら、決意を新たに行政改革の徹底と議会の活性化に取り組んでまいれる所存でございます。

今後も観光都市として、まちの活性化や財政再建をはじめとし、議長として本市発展のため、全力を尽くす所存でございますので、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

どうか、平成20年が皆様にとりまして、幸多い年でありますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。